

職員アンケート調査（結果抜粋 ※記述欄を除く）

○弥富市への愛着と住みやすさ

➡市内在住者と市外在住者がほぼ半々という中、市への愛着は 78.2%の方があると回答。しかしながら、住みやすさの部分では、住みやすいと答えた方が 53.5%にとどまった。なお、弥富市に住みたいと思える理由として、道路状況や交通の便の良さが最も多く挙げられ、一方、住みたくない理由としては、地域行事や近所づきあいの煩わしさが最も多かった。

○市政に対する評価〔満足度・重要度〕

①満足度が高いもの（「満足」及び「どちらかといえば満足」）

➡「消防・救急体制の強化」(66.4%)／「子育て支援の充実」(62.3%)／「防災対策の推進」(60.1%)

②満足度が低いもの（「不満」及び「どちらかといえば不満」）

➡「公共施設の手入れの行き届き具合」(19.6%)／「電車・駅関連施設の利用しやすさ」(18.0%)／「観光の振興」(16.5%)／「市街地の整備」(16.5%)

③重要度が高いもの（「重要」及び「どちらかといえば重要」）

➡「防災対策の推進」(88.6%)／「学校教育の充実」(88.0%)／「子育て支援の充実」(85.7%)

④重要度が低いもの（「重要でない」及び「どちらかといえば重要でない」）

➡「観光の振興」(9.1%)／「コミュニティの強化」(8.2%)／「公園・緑地の充実」(7.5%)

○現在の社会情勢等による暮らしへの不安

➡社会保障、災害対策に対する不安があり、また、コロナによる影響と考えられる外出機会等の減少や働き方の変化による負担、体調不良・健康状態の悪化に不安を抱いている。

○新型コロナウイルス感染症に対する重点実施施策

➡安定した医療体制の確保を求める声が多く、次いで子育て世代への経済的支援、保育所等の感染防止対策が多かった。

○デジタル化を望む分野とその期待する効果

➡各種届出や証明書発行の他、医療や健康分野についてデジタル化を重要と感じている方が多く、それにより窓口での待ち時間が減り、市役所等の窓口に出向く機会が減ることを期待している。ただし、デジタル化の進展に伴い、情報通信機器を利用できる人とできない人との間の格差についても8割超の人が懸念している。

○市民参画、協働のまちづくり

➡行政として広報・広聴活動の充実が必要との意見が多く出た。また、公共施設や公共サービス提供への市民及び民間の参画・協働の促進が必要との意見も多かった。

○総合的なまちづくり

➡「子育て」、「住環境整備」、「防犯・防災・交通安全対策」が重要との声が多い中、「若者の定住、就業促進」や「企業誘致促進、企業活動支援」にも力を入れたほうが良いという意見も多くあった。